

障連協にゅーす

第 45 号

発行日 2019年1月20日
 編集 NPO法人
 旭川障害者連絡協議会
 発行者 松山 伸
 住所 旭川市宮前1条3丁目3番7号
 旭川市障害者福祉センター
 「おびった」3F
 電話 0166-31-2226

■障連協にゅーす

45号目次

2 平成30年度旭川市障害者週間記念事業

1 年頭の挨拶他

編集後記

年頭の挨拶



厳しい自然災害が多かった2018年が終わり、静穏な2019年を希望し、新しい年を迎えたいと思います。

2018年はピョンチャン冬季オリンピックで高木姉妹のメダル獲得など北海道関係者の大活躍などがあり良い一年を予想させてく

れましたが、激しい気候変化で酷暑、水害があり、最後には記憶に新しい北海道胆振東部地震が発生し大災害となりました。

旭川市障害者福祉センター（以下おびった）は昨年度にプールの大改修を終え、順調に多くの市民ご利用を頂いています。

特筆すべきは市民からの苦情などが無いようで、日頃より現場を担ってくれる職員と受託企業の努力の賜物と感謝しているところで

す。2018年は「偽装」、「虚偽」、「不正」の言葉が出てこない日が無い様な年でした。今まで日本がここまで発展した原動力は製造技術への信頼性、正確性とも言われました。また政治は二流だが官僚機構の厳正さを国民が信頼していることとも言われました。

三菱自動車の燃費不正申告、日産自動車の車両検査不正、神戸製

鋼の検査データ改ざん、KYB制振ダンパー検査不正と毎日の様に超一流製造企業による不正が明るみ出ています。

呆れ返るのは障害者の雇用を推進するべき厚生労働省が法定雇用率の未達成から明るみに出た、法を守るべき法務省を含めての全省庁、国会、裁判所と国の全ての機関での虚偽報告である！その数が4,000人とも云われ、短時間で解決しようとすれば、後年の採用に大きく影響を与える問題です。

いやなニュースが多い中で、年の最後にはオリンピックで銅メダルに輝いたカーリング選手たちが発した「そだねー」が流行語大賞に選考されたことは、自然と笑みがこぼれる事でした。

旭川市職員を定年退職し、自由気ままに生きていこうと思いましたが、身障者協会事務局長になっているうちに、高津前理事長と外の灰皿でタバコを供にした縁なのか？今の立場となりました。至らないことも数多くあると思いますが、出来る限り猪突猛進にならないよう努力するところですので宜しくお願いします。

今年一年が災なく皆様に稔り多く、幸多かれと祈念して年初の挨拶とします。

NPO法人旭川障害者連絡協議会 理事長 松山 伸

ご寄付

平成30年11月20日 真心会会長 富居慶幸 様 金10万円

2月・3月 スポーツ教室ご案内

2/10(日)レクボッチャ教室

3/17(日)ゴロ卓球バレー教室

世界自閉症啓発デー

2007年に国連総会で定められ、4月2日に世界各地で自閉症をはじめとする発達障害について広く理解、啓発活動として、癒しや希望を表す。ブルーライトを灯しています。

Light it up blue Asahikawa 2019

日時 2019年4月2日(火) 18:00~20:30 ----- ブルーライト点灯 in Cocode

4月6日(土) 14:00~15:30 ----- 浅井未歩&ふぁそら ライブコンサート

YOSAKOI びあどらごん

場所 旭川市民活動交流センター Cocode (ココデ)
 旭川市宮前1条3丁目3番30号

参加 参加費無料 申込不要

平成30年度旭川市障害者週間記念事業

今年の天候はここ何十年に一度と言えるほど12月に入っても降雪は少なく、障害者週間記念事業に来場される方々の足を止める影響がないことに事業運営関係者は安堵しました。

おびった2階の体育館を会場にして、例年出演を頂いている旭川大学短期大学部の手話サークル「ド・レペ」の学生の皆さんによる手話歌・ハンドベル演奏のオープニングから障害者週間記念事業が開催されました。



今年の手話歌も練習を重ねている成果も見え、皆さん歌詞に合わせて上手に手話を表現していました。また、ハンドベル演奏も音色がとても美しく会場を魅了していました。

その後、西川旭川市長に代わり保険福祉部稲田部長及び松山理事長の挨拶をした後、来賓としてお越し頂いた旭川市議会笠木議長と旭川市社会福祉協議会大沼会長より祝辞を賜りました。挨拶された方々はこの事業が障害の有無に関わらず大変有意義であるものと挨拶されていました。

今年の記念講演は久しぶりに映画上映になりました。タイトルは「夜明け前」～呉秀三と無名の精神障害者の100年～という映画でした。ドキュメンタリー映画なのでリアルさがとても伝わり、精神障害者に対する国や地域の対応の酷さが表された映画でした。

上映後3人の精神障害者の方々から今の実情についての体験談を語って頂き、それぞれの方が自分の苦勞された過去を話してくれました。パネルディスカッションの司会としてあかしあ労働福祉センターの北村氏とのやり取りの中で、映画の100年前と現状はだいぶ変わってはきているが、今なお素直に周りに理解されて就業に就くことの難しさや生活することの苦勞を当事者の方々は訴えていました。それでも懸命に自分の状況と向き合い希望を見だして行きたいと言葉にしていました。今回の記念講演は精神障害者にスポットをあてたテーマでしたが、根底には社会と障害者全般に関わることでもあるのではないかとも思いました。



更に楽しい内容では旭川市内で活動されている市民グループによるアトラクションの披露もありました。今年旭川医療センター「AICE」(エース)によるバンド演奏でキーボード、アルトサックス、フリューゲルホルン、ヴァイオリンのセッションによる演奏でした。演奏後にアンコールがかかったのですが、記念講演の時間が迫っていたのでアンコールは諦めました。会場の人達は残念がっていました。

また演舞では二つのグループが出演しました。一つは子供達のチアダンス「SHINIS」(シャイニーズ)で大勢の前で子供達はとても緊張していましたが、子供達の可愛さに会場は微笑ましい雰囲気になっていました。

もう一つは旭川のYOSAKOIソーランチームの「SIN」(シン)というグループと「大雪風神会」というグループの合同演舞でラストを飾り、会場を駆け回ったり、4メートルもある旗を振ったりと元気で力強い演舞で締めくくりました。

また、当日の会場では市内の福祉事業所・障害者団体による販売会も同時に開催され、来場されたお客様で賑わっていました。さらに障害者団体の様々な署名活動も行われ、障害者週間記念事業に向けて理解を深めてもらいたいと活動していました。



編集後記

皆様 明けましておめでとうございます。昨年一年を振り返って色々な行事がありました。私自身、皆さんの声、講演など聞き心に強く響く思いがありました。皆さんも楽しかった事など思い出して下さいね。昨年の一文字が「災」となり、今まで災害の少なかつ

た北海道にも地震、水害が心配です。 呉々も寒さに負けず、災害にも負けず我々の人生です。 楽しく元気に過ごせるように共に頑張りましょう。 今年も明るいにゆーす、びっくりにゆーすを知らせて欲しいです。 お待ちしております。(T.S)